

様式1 人口、建物、避難所等の施設、災害危険性の評価

●住所名称

旭1~4丁目	亀田四ツ興野1~5丁目
泉町1丁目	五月町1~3丁目
鶉ノ子	早苗1~4丁目
鶉ノ子1~5丁目	西町1~6丁目
荻曾根	東船場1~5丁目
荻曾根1~5丁目	船戸山
亀田	船戸山1・2・3・5丁目
亀田大月1~3丁目	元町4丁目
亀田中島1~4丁目	
亀田ノ内高山	
亀田本町1丁目	
亀田緑町1~4丁目	

●位置図

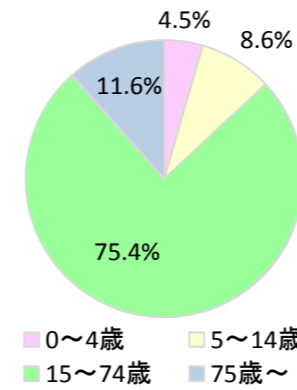


●施設・団体

市役所・区役所等	亀田行政サービスコーナー
警察・消防	江南警察署、亀田駅前交番
消防団	江南方面隊 亀田分団
水防倉庫	—
一時避難場所	中島公園、大月公園、さつき公園、亀田運動広場、西町公園
広域避難場所	—
主 利 な 用 要 施 配 設 慮 者	幼稚園・保育園 トキめき保育園、亀田第四保育園、亀田第五保育園、YOUなかの保育園
	高齢者福祉施設 サンパレス輝、かめだ本町の里
	障がい者福祉施設 日だまり、かめさん

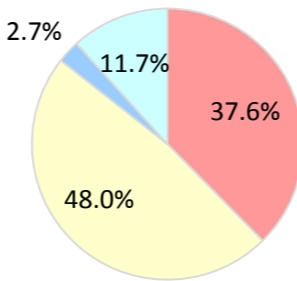
●人口

項目	人数	地区の割合	市の割合
総人口	11,769人		
0~4歳	529人	4.5%	4.0%
5~14歳	1,009人	8.6%	8.5%
15~74歳	8,871人	75.4%	74.6%
75歳~	1,360人	11.6%	12.9%
65歳以上人口	3,055人	26.0%	26.0%
世帯数	4,779世帯		
一世帯あたり人口	2.5人/世帯		2.5人/世帯
人口密度	2,906人/km ²		1,108人/km ²
昼間人口	12,939人	夜間の109.9%	



●建物関連指標

区分	種類	棟数	地区の割合	市の割合
木造	S55年以前建築	1,849棟	37.6%	44.2%
	S56年以降建築	2,359棟	48.0%	46.7%
	計	4,208棟	85.6%	90.9%
非木造	S55年以前建築	132棟	2.7%	3.4%
	S56年以降建築	576棟	11.7%	5.7%
	計	708棟	14.4%	9.1%
S56年以降建築物		2,935棟	59.7%	52.4%



S55年以前:主に旧耐震 S56年以降:主に新耐震
※集計時に端数処理をしたため、合計値があわないことがあります。

●地区内の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階 数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]亀田西小学校	1.1	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]亀田西中学校	1.0	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]亀田市民会館	1.5	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]亀田第四保育園	0.4	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]亀田第五保育園	-0.3	2	○	—	2階以上	—

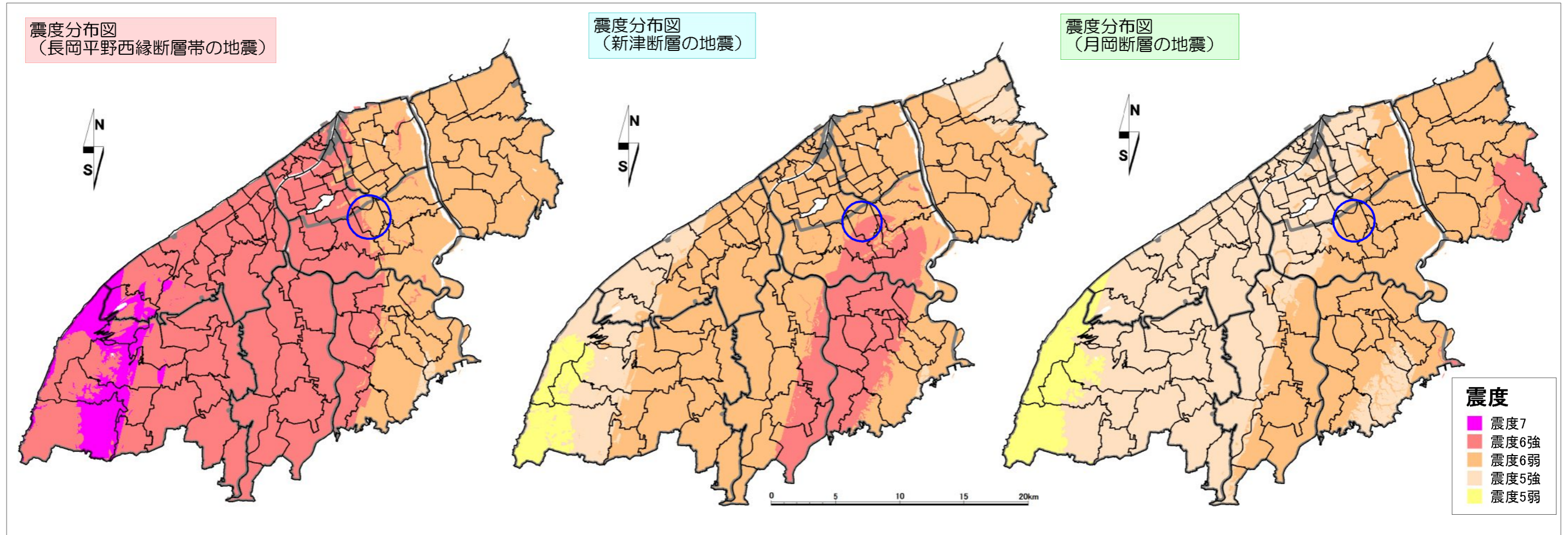
●地区外の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階 数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]山潟中学校	0.2	4	○	—	2階以上	—
[ヒ]早通小学校	1.2	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]新潟向陽高等学校	0.5	3	○	—	2階以上	—

避難の可否(災害ごとに表記):開設する施設を「○」、避難可能な階数を「階数」、開設しない施設を「—」、避難に適さない施設を「×」

●災害危険性の評価

地震・津波	地区の大部分が軟らかい地盤の上に分布するため、大きい地震の時には、強い揺れの可能性がある。また、かつて水田として利用されていた地域では液状化の危険性は高い。津波の浸水は想定されていない。
水害・土砂	阿賀野川の洪水、信濃川下流の洪水、鳥屋野潟流域及び小阿賀野川・能代川の洪水によって、地区の広い範囲で浸水の可能性がある。



	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年 断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。 月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上 断層の活動性 0.4m/千年程度

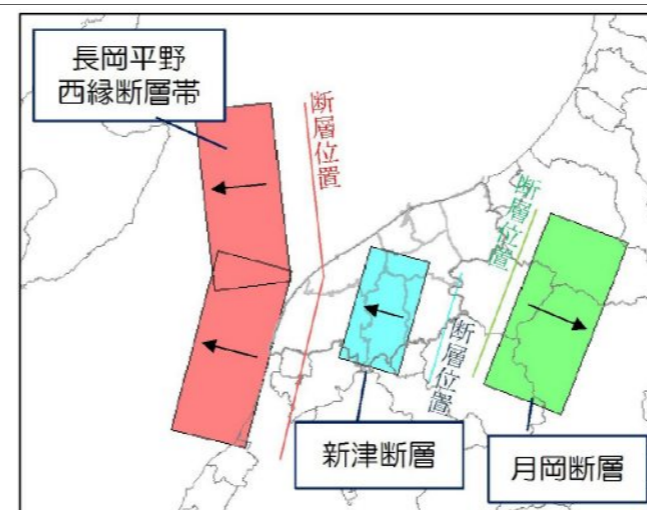
※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。

【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】

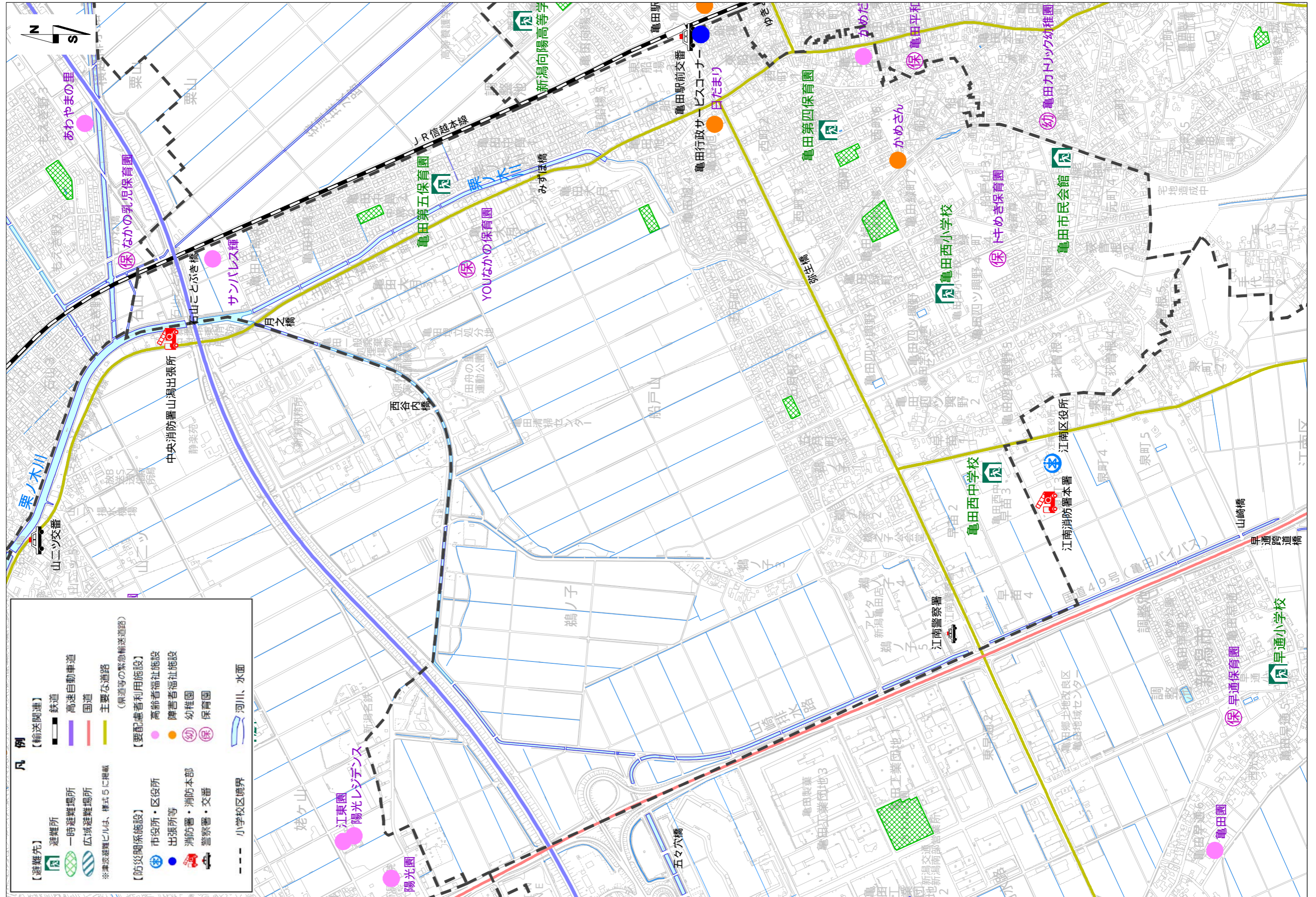
過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>

モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。

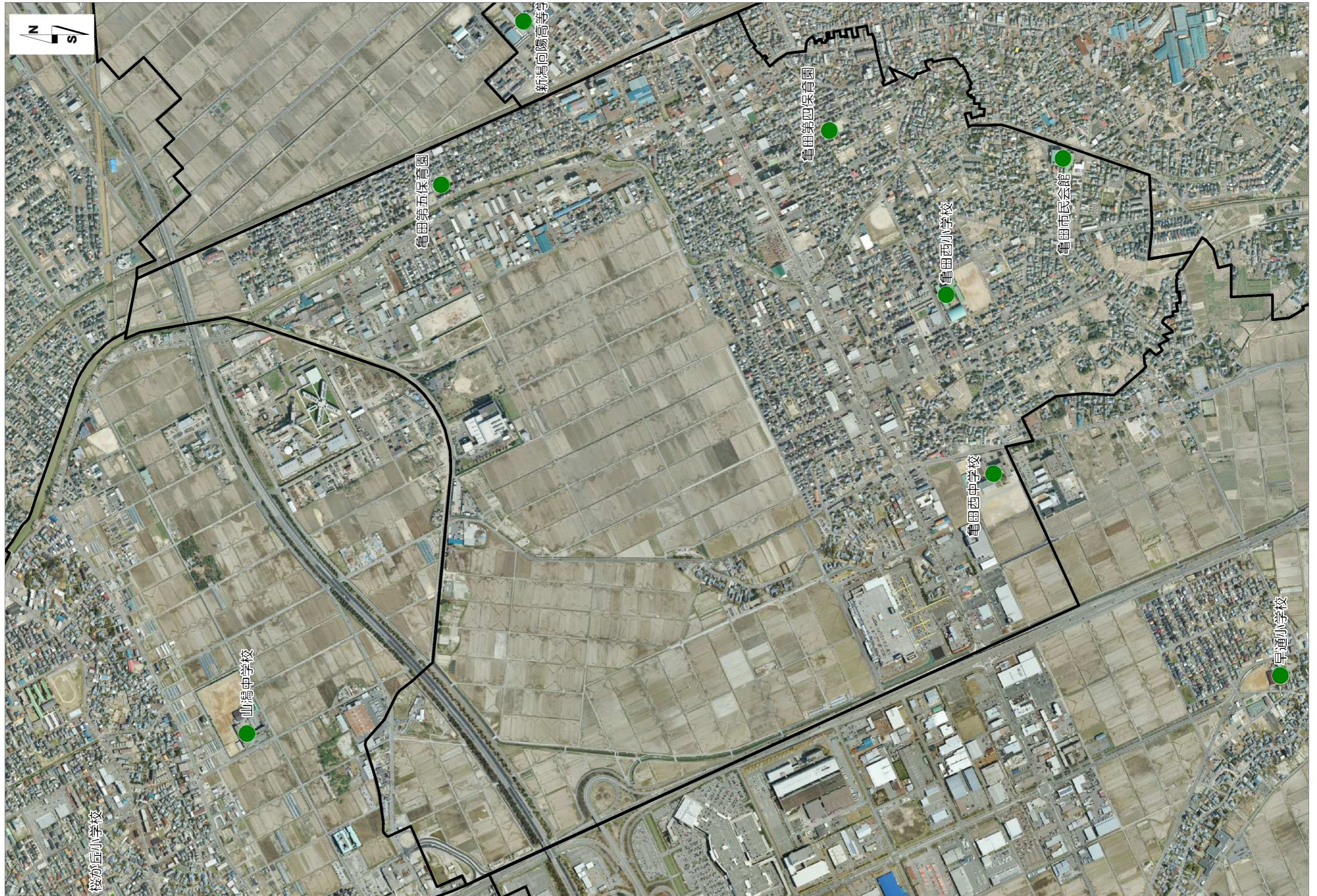


← は、断層の傾きを示しています。

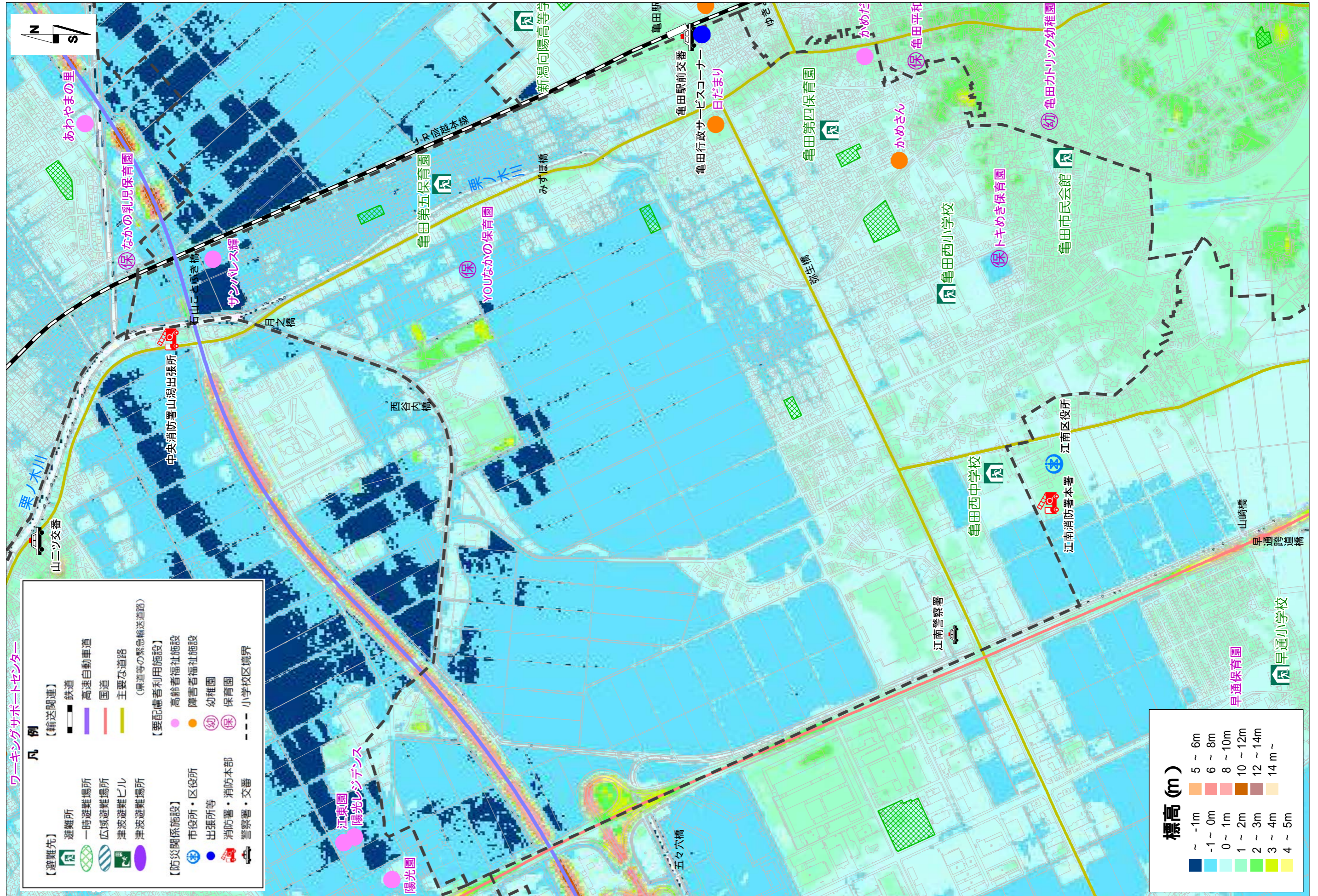


【出典】 棋盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年,平成25年,平成26年)





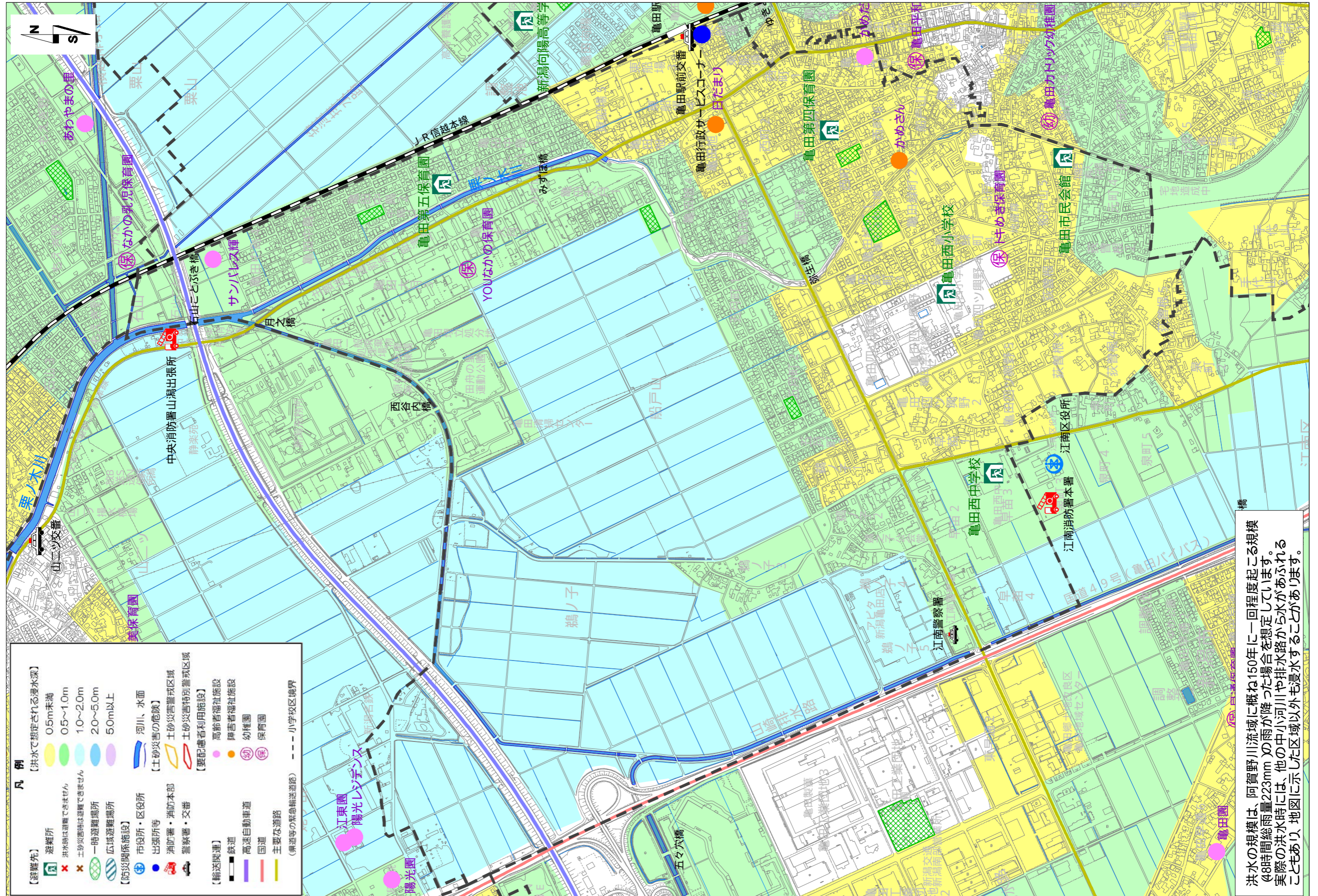
様式5 標高分布図



【出典】 基礎の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年) 5mメッシュDEM (国土地理院, 平成25年)

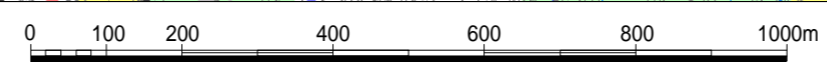
0 100 200 400 600 800 1000m

様式6-1 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（阿賀野川）

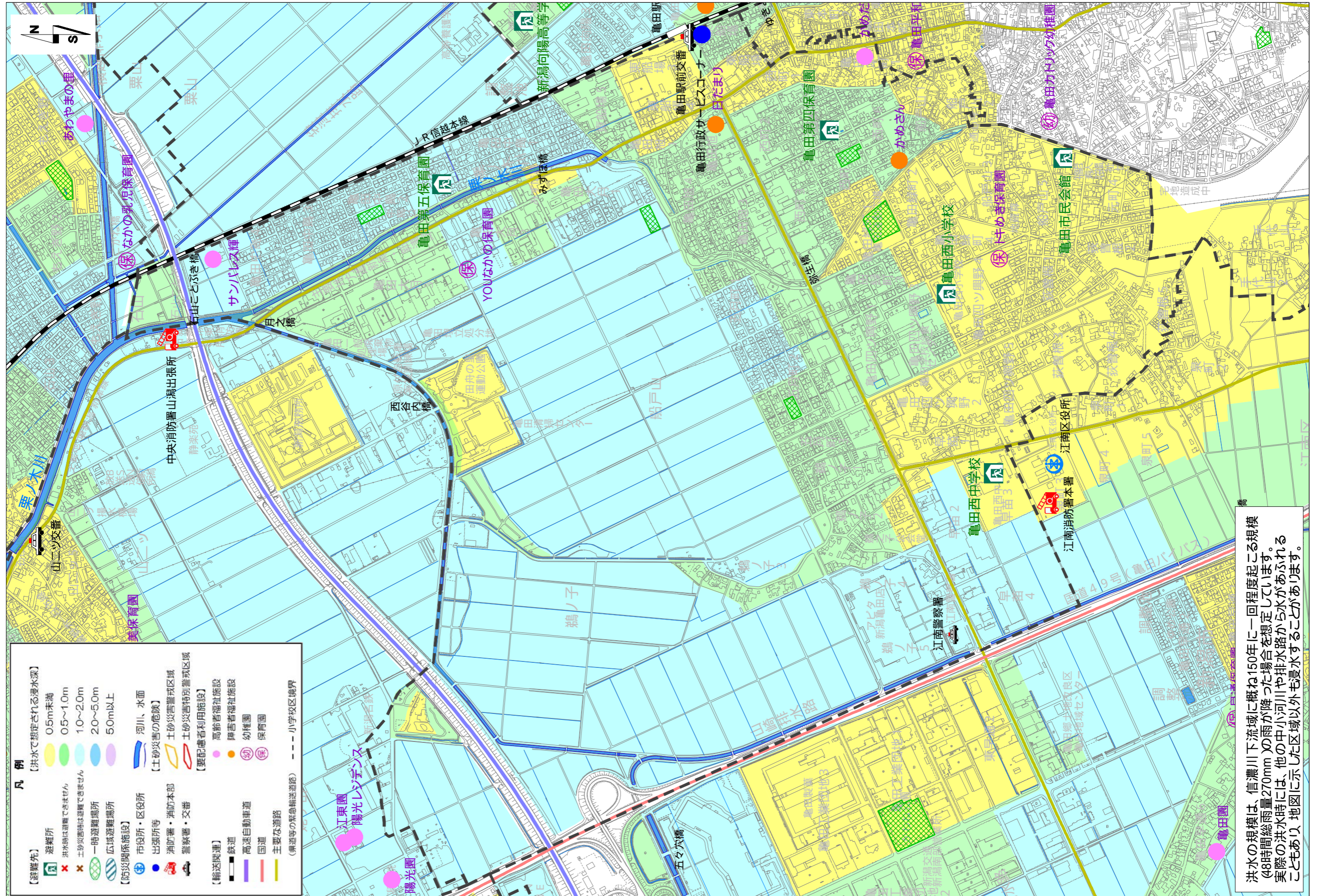


洪水の規模は、阿賀野川流域に概ね150年に一回程度起こる規模(48時間総雨量223mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

【出典】 基礎の地図 新潟市国土基本図 (平成20年,平成25年,平成26年) 阿賀野川浸水想定区域 (国土交通省,平成14年1月31日)



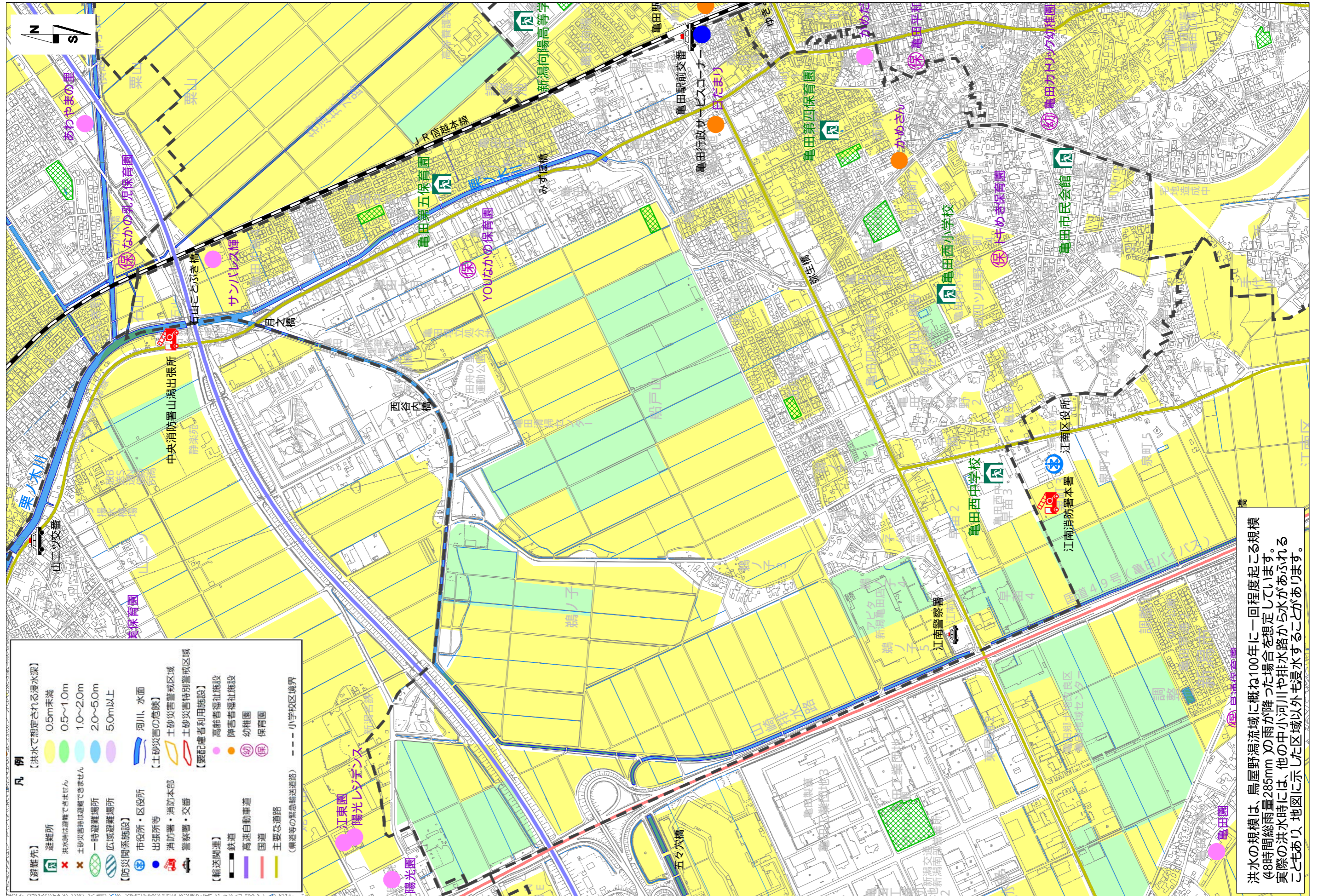
様式6-2 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（信濃川下流）



[出典] 基礎の地図 新潟市国土基本図 (平成20年,平成25年,平成26年)
 信濃川下流浸水想定区域 (国土交通省,平成14年4月30日)



様式6-3 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（栗ノ木川上流・鳥屋野瀉・鳥屋野瀉放水路）

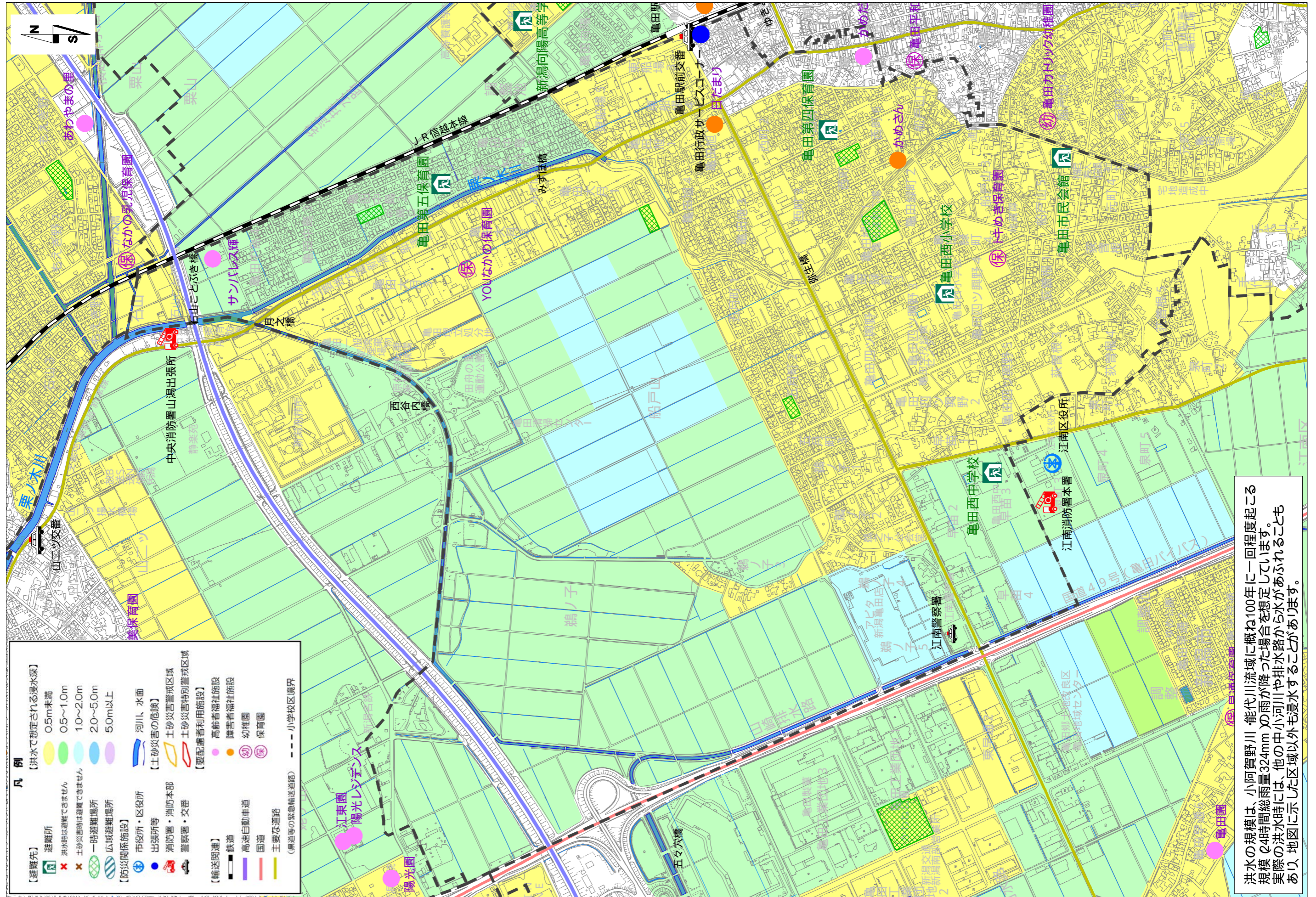


洪水の規模は、鳥屋野瀉流域に概ね100年に一回程度起こる規模 (48時間総雨量285mm) の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

【出典】 基礎の地図 新潟市国土基本図 (平成20年、平成25年、平成26年)
 栗ノ木川上流・鳥屋野瀉・鳥屋野瀉放水路浸水想定区域 (新潟県、平成18年8月25日)



様式6-4 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（小阿賀野川・能代川）



洪水の規模は、小阿賀野川・能代川流域に概ね100年に一回程度起こる規模の4時間総雨量324mmの雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外にも浸水することがあります。

【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図（平成20年，平成25年，平成26年）
小阿賀野川 能代川浸水想定区域（新潟県，平成16年6月23日）